



非認知能力 と Z(ゼット)世代

激動の1960年代～1970年代の高度経済成長期、1980年代半ば～1990年代初めのバブル経済絶頂期からバブル崩壊があり、日本経済は不況のどん底でした。

そして1990年代後半は、世界でインターネット環境が整い始め、身近になったころです。そんな時代に生まれ育った世代が、現在マスコミなどでよく見聞きする「Z世代」といわれています。

- ①インターネット環境での情報収集が当たり前で、テレビの視聴時間よりもYouTubeやSNS等のインターネット利用時間が多い。
- ②社会問題への関心も強い傾向があり、SDGsに代表されるような環境問題への取り組みや、多様性に関する考え方に若いうちから触れています。
- ③ブランドに対するこだわりがなく、「親から勧められた商品」「昔から知名度の高い会社の商品」よりも、「自分の価値観に合うかどうか」といった視点を重視する傾向があります。

その間、教育の世界も時代や社会の変化に合わせていくつかの改革が行われました。今の新学習指導要領が完全実施となって2年目に入っています。今回の改革により、教育で今注目されているのが見出しの言葉です。そして、字が書ける、数がわかる、IQ等で測定できる力を**認知能力**といいます。

それに対して、IQ等で測れない内面的な力を**非認知能力**といいます。例えば、

- 目標に向かって頑張る力
- 他の人とうまくかわる力
- 感情をコントロールする力

新学習指導要領では、「資質・能力の3つの柱」として、

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力・人間性等

の育成を挙げていますが、③が**非認知能力**にあたります。

アメリカ教育経済学者ジェームズ・ヘックマンが、「IQに関係なく、非認知能力の高い子どもは将来、年収が高い、学歴が高い」という調査結果を発表し、実は非認知能力こそが大切であることがわかってきました。さらに、ヘックマンさんの主張は大きく2つです。

ひとつは、子どもの教育に国が公共政策としてお金を使うなら、就学前の乳幼児期がとても効果的だということ。もうひとつは、幼少期に非認知的な能力を身につけておくことが、大人になってからの幸せや経済的な安定につながるということです。



日本のアスリート選手の活躍が私たちに元気をくれています。例えば、メジャーリーグのエンジェルスで活躍している大谷翔平選手のインタビューやチーム内の人間関係の様子をテレビのニュースなどで見ることがあります。大谷選手の人柄もあるかもしれませんが、上記の太文字にあった「非認知能力」を全て持っているように感じます。でも「そうか、幼稚園のときにそんな力をつけてもらっていたらなあ…、残念」とあきらめないでください。

プロテニスの世界で活躍中の大坂なおみ選手も、以前は感情のコントロールが不安定な時期もありましたが、その後、自分で自分の感情をうまくコントロールされていました。その様子を見ていて、気付いたときに改めるチャンスだと思いました。その気になれば、人は変えられるはずですね。

学校に、地域に、貢献する河南中生徒！

4月が始まって、早々に学校行事や活動が目白押しで、河南中生徒は、大変頑張っています。今年度も、「自己有用感」や「自己肯定感」を高めるための活動や取り組みを進めています。何か特別なことをするのではなく、日常で進めていることを少し意識していくことで、自分の価値観や自分が役立っている意識を少しずつ持ってほしいと思っています。

学校や地域のためなら積極的に貢献するにゃん！



チューリップ祭りボランティア 3年ぶりの開催。参加した生徒の活躍に地域から大絶賛でした。



校内水やりボランティア 花いっぱい校地に心が癒やされます。



イメージキャラクター
かにゃん

生徒会入会式 2・3年生と新入生の素晴らしい出会いのセレモニーでした。



1年交通安全教室 登下校の交通ルールを守って、自分の命を守ります。



3年修学旅行 熊野古道から南紀白浜方面、素晴らしい団体行動で、心のアルバムに楽しい思い出ができました。



走ろう会 毎週、月・水・金の朝に実施しています。



2年春散歩 春を感じたひととき

